

折に触れ 四字熟語

NO.1 『毫釐千里』 ごうり せんり

私は中野区に在住する舛本純です。この度、小俣代表のご了解を得て、この生活者通信の中に四字熟語のコーナーを設け、担当させていただくことになりました。これから折に触れ、皆さんと一緒に四字熟語の奥深い世界を逍遙して参りたいと思います。

実は私は平成26年5月に漢字教育士に認定されました。漢字教育士と言っても皆様には聞き慣れない資格と思います。立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所が認定する資格で、漢字の歴史的・文化的側面を体系的に学ぶことを目的に設立されました。私は第二期生ですが、現在までに432名の漢字教育士が誕生しており、その学んだ知識を生かして、漢字の面白さを多くの方に伝えるために全国で活動を始めるところです。

さて、第1回目の四字熟語は「毫釐千里」です。

私の出発への自戒の意味で、更にいえば、3月に誕生した民進党へのエールを込めて選びました。

< 意味 > 初めはわずかな違いではあるが、しまいには大きな誤りとなる。また、初めはごく小さな違いでも、しまいには大きな違いになること。初めを慎むべき、と云う戒めの言葉。

< 出典 > 「礼記」 <経解>篇の最後にあります。

読み下し：『易に曰く、君子は始めを慎む、^{たが}差ふこと若し毫釐ならば、謬るに千里を以てせんと。之の謂なり。』

通 釈：易書に「君子は始めを慎む。もし始めに一厘でも狂っていると、後には千里の開きを来す」とあるが、それは上述の趣旨に合っているのである。

参 考：毫はわずか、少し。釐は単位の名で、やはり極めてわずかの意味があります。

参考文献：明治書院「新釈漢文大系」三省堂「四字熟語辞典」漢検「四字熟語辞典」